

家に帰って
ネットでマチづくり？



坂井市

デジタル

帰宅部

with アクセンチュア(株)&一般社団法人BEAU



坂井市御中

令和7年度坂井市デジタル帰宅部
運営業務 最終報告書

BEΔU

2026年2月28日

目次

背景・目的

活動報告

成果報告

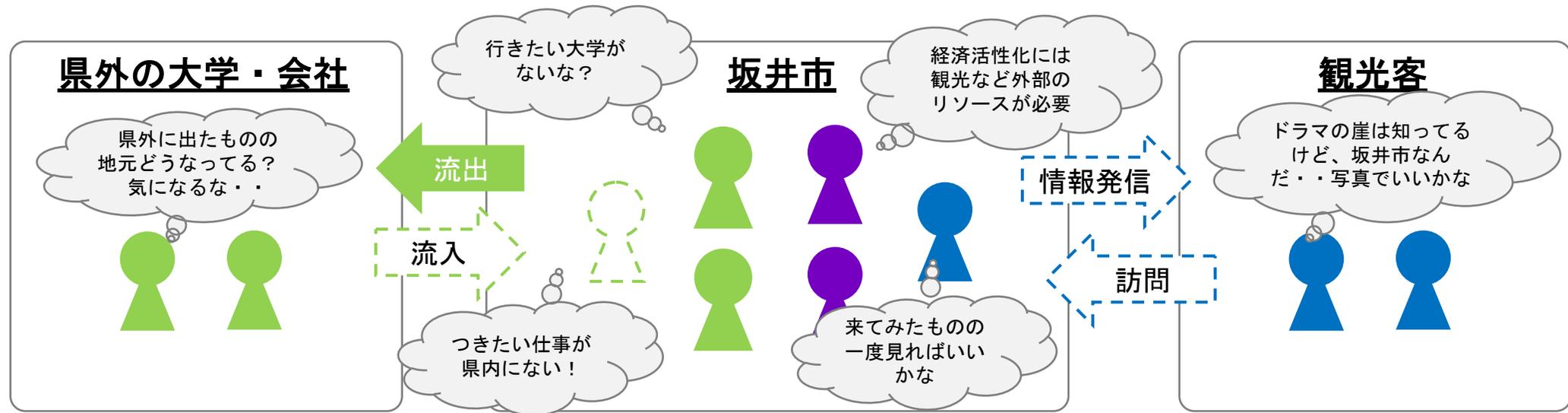
来期に向けた改善点

背景・目的

坂井市における課題認識

若者の流出や地域経済活性が課題であり、若者のUターンの促進や観光を軸とした経済活性化が必要

坂井市における課題



地元が気になるが
きっかけ/希望する仕事
がなく戻ってこれない

進学や就職のために若者が
大都市圏へ流出
観光客も短期滞在でお金を
落とさず経済活性化につな
がっていない

魅力ある観光資源は
あるものの、その価値が
知られていない

背景・目的

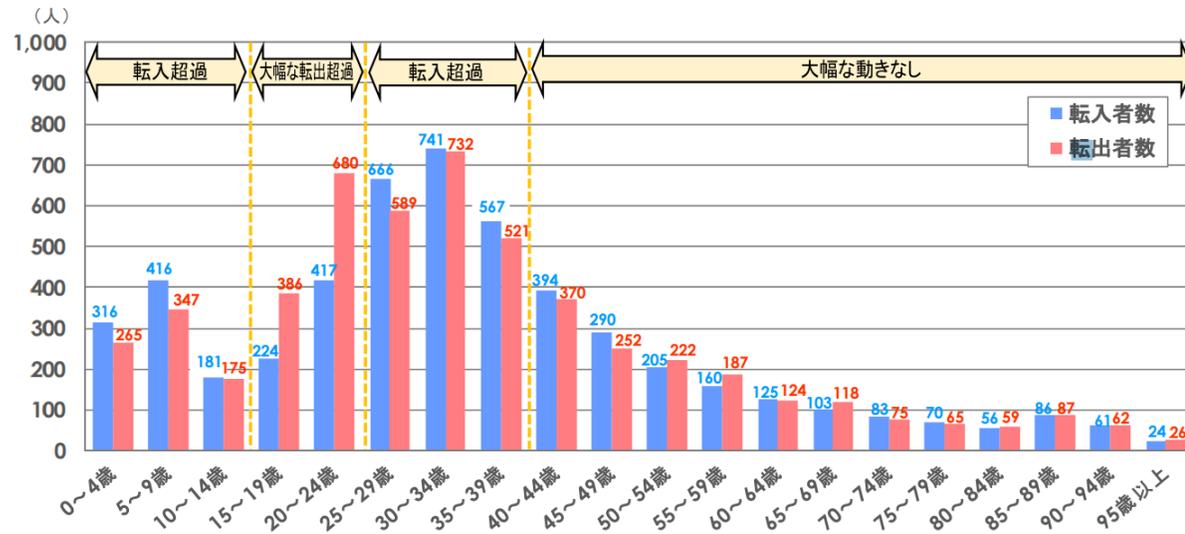
坂井市における課題認識 ～若者の流出

15歳から29歳までの若者が毎年約300名程度転出しており、その後戻ってきていない状況。

転出した若者がUターンで戻ってくる、もしくは県外からIターンでやってくる仕組み/環境を整える必要があると考える。

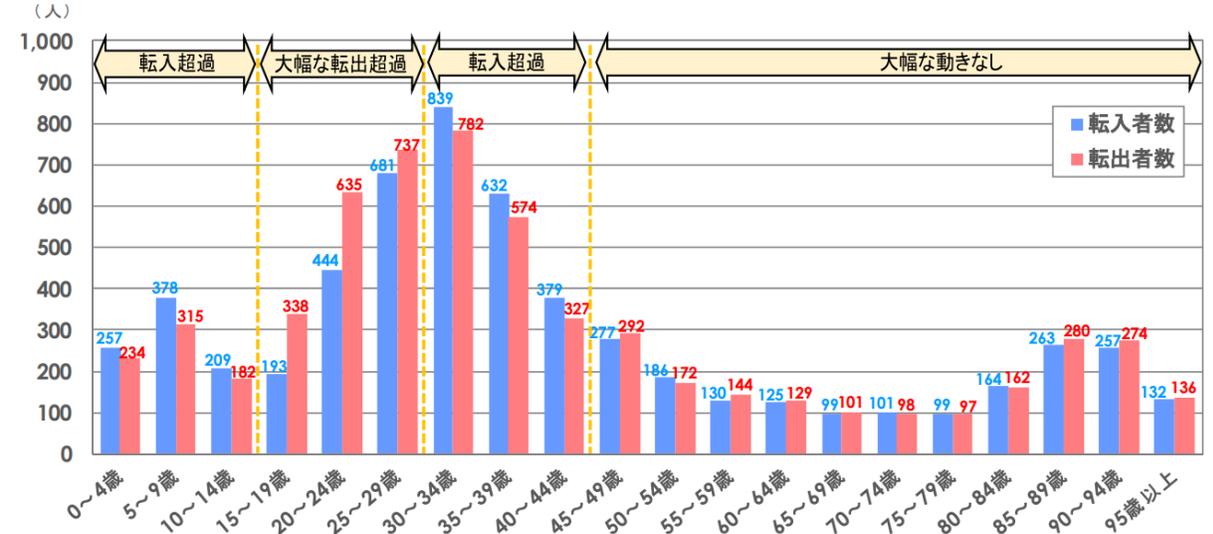
年代別転入転出数（2015年～2020年）

■図 年齢別社会動態（平成27年～令和2年）（男性）



資料：国勢調査（R2）

■図 年齢別社会動態（平成27年～令和2年）（女性）



資料：国勢調査（R2）

引用：坂井市人口ビジョン(令和6年度改訂)より

背景・目的

坂井市における課題認識 ～観光の促進

施策とKPI目標

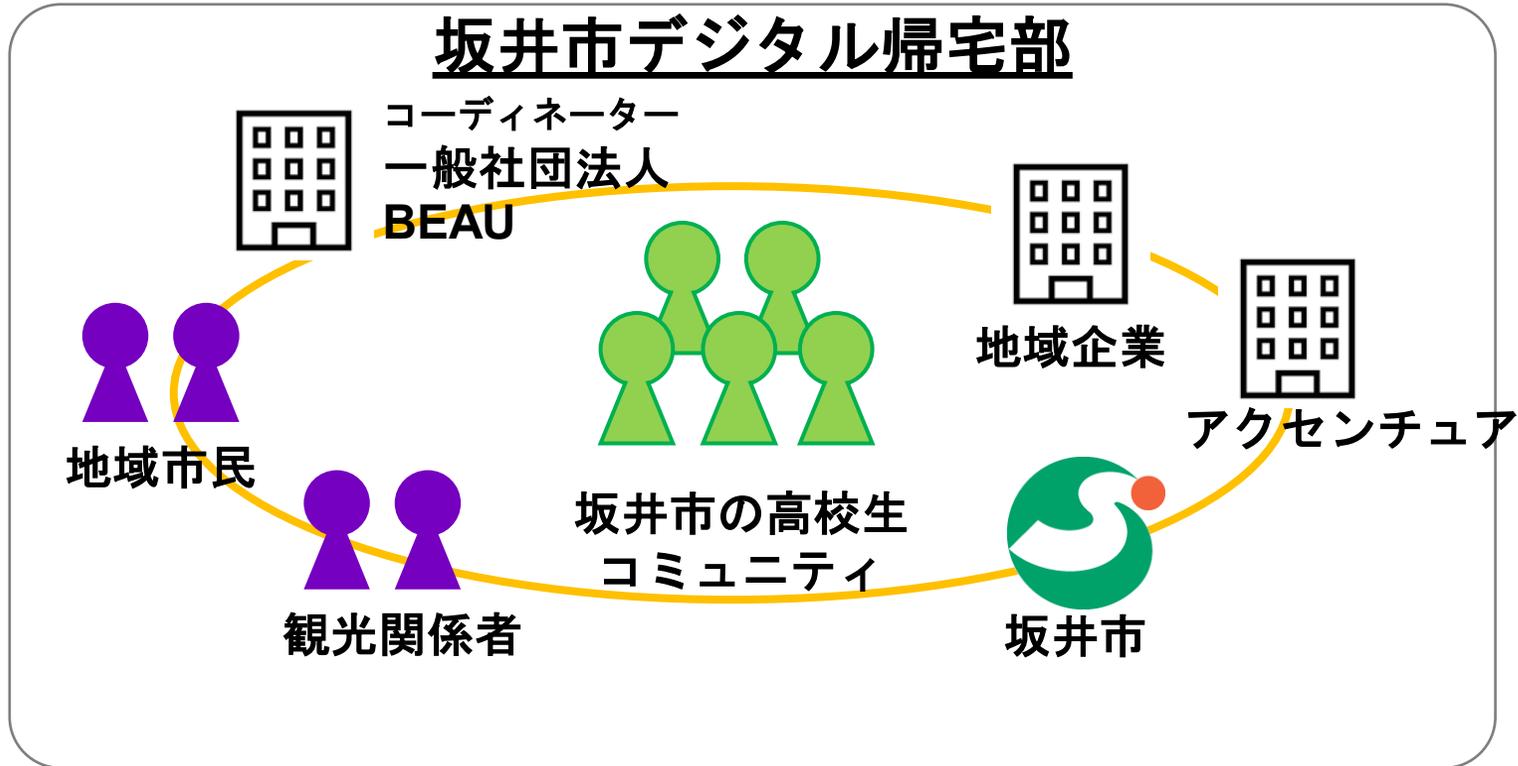
分類	現状値(2023年)		目標値(2025年)
観光客入込数	443.9万人	約35%増	600.0万人
年間国内宿泊者数	221,634人		200,000人
年間外国人宿泊者数	898人	約22倍増	20,000人
観光消費額	238.3億円	約30%増	310億円

引用：坂井市観光ビジョン戦略基本計画(FY25公表予定)

第二次坂井市まち・ひと・しごと創生総合戦略(令和6年3月改定) より抜粋

背景・目的

高校生による新たな坂井市の魅力の発見・発信



活動を通じて地域への愛着を育み
将来的な若者のUターンにつなげる

坂井市の新しい観光資源の発見と発信

若者ならではの視点による魅力を発信し、
インバウンドを含めた観光客の増加

運営の方針

昨年の運営方法に【着実な変化】をつくり続ける。

今期の運営テーマ

前年度の運営実績と知見を基盤として引き継ぎながら、事業目的の達成に向けた運営改善を段階的に実施した。

本年度は、前年度の実績を基盤としつつ、さらなる事業目的の達成に向けた段階的改善を推進しました。当社主力事業の「BEAU LABO」で得た運営知見や、高校現場での監修・支援実績を各施策に反映。日々の業務一つひとつに「着実な変化」を組み込むことで、サービスの質の向上と持続的な成長を意識した運営を徹底いたしました。

当社の強み

コンテンツ企画力： 高校生の目線に立ち、主体性を最大限に引き出す設計

運営ノウハウ： フィールドワークや活動を通じた「深い学び」を誘発するワークショップ運営

教育現場との連携： 「BEAU LABO」を通じて構築した、市内県内の教員との強固なネットワーク

広報・クリエイティブ： 高校生の感性に響くデザインと、最適化された広報戦略

デジタル活用： オンライン環境下における質の高いプログラム運営と学習/活動支援

コミュニティ形成： 高校生との継続的な接点を創出する、伴走型の関係構築

学習評価と内省支援： 地域の魅力理解と自己変容を促す、独自のアンケート設計および対話手法

活動報告

今年度の活動一覧と参加人数 (デジタル帰宅部)

● 対面での実施：黄色網掛け

各メンバーへ事前の個別案内を徹底することで、参加率の向上を図りました。また、ミーティングの進行においては、単なる業務連絡に留まらず、日常の出来事やポジティブなエピソードを共有する時間を設けることで、発言しやすい雰囲気づくりと相互理解を促進しました。

日程	内容	参加人数
7/13(日)	対面：キックオフ	20
7/31(木)	ACNスキルアップ講座① FW前事前MTG	13
8/6(水)	対面：フィールドワーク 丸岡城	9
8/9(土)	対面：フィールドワーク 三国湊	10
8/13(水)	対面：フィールドワーク 東尋坊	7
9/11(木)	部活 (マイクラアイデア構築)	19
9/18(木)	タツナミさんWS(1回目)	18
9/25(木)	部活 (マイクラ構築)	17
10/2(木)	部活 (マイクラ構築)	16
10/26(土)	合宿(1日目)・ACNスキルアップ講座②	7

日程	内容	参加人数
10/30(木)	グローバルディスカッション	12
11/6(木)	部活 (タツナミさん報告準備)	13
11/8(土)	臨時部活 (東尋坊チームのみ)	5
11/13(木)	タツナミさんWS(2回目)	9
11/20(木)	部活 (マイクラ構築・施策ブラッシュアップ)	12
12/6(土)	追加フィールドワーク	5
12/7(日)	合宿(2日目) 最終報告会準備	12
12/11(木)	部活 (最終報告準備)	14
12/18(木)	部活 (最終報告会リハーサル)	14
12/20(土)	最終報告会	13
1/22(木)	部活 (ワールド交流会準備)	8
2/1(日)	ワールド交流会	7

活動報告

今年度の活動一覧と参加人数 (アナログ企画部)

- 対面での実施：黄色網掛け

丁寧なリマインドとタスクの明確化、そしてメンターによるきめ細やかなサポート体制を整えました。「何をすればいいかわからない」という不安を取り除き、高校生が安心して一歩踏み出し、自ら動けるような場づくりを徹底しました。

日程	内容	参加人数
7/8(火)	部活 (顔合わせ、プロジェクト名確定)	2
7/13(日)	対面：キックオフ	20
7/15(火)	部活 (デジタル帰宅部での案を整理整理)	1
7/22(火)	部活 (イベント内容案出し)	3
9/9(火)	部活 (フィールドワーク前準備)	2
9/13(土)	対面：フィールドワーク	2
9/24(水)	部活 (活動内容と方向性の再確認)	2
10/25(土)	対面：フィールドワーク	2
10/28(火)	部活 (イベント企画内容確認)	1
11/4(火)	部活 (イベント企画内容確認)	2

日程	内容	参加人数
11/15(土)	部活 (イベント準備に向けて確認)	3
11/16(日)	対面：イベント準備	2
11/18(火)	部活 (イベント前内容最終確認)	3
12/14(日)	対面：イベント Pichi-Dash～繋ごう！人と人～	20
12/16(火)	部活 (最終報告会準備)	3
12/18(木)	最終報告会リハーサル	1
12/20(土)	最終報告会	2

活動報告

高校生参加者の詳細（属性・所属/学年）

2025年度の活動には、合計18名の高校生がメンバーとして参加。

※最終報告会の日程などや活動期間が受験期間や受験日などに被ることから、3年生はメインターゲットとしていない。

高校名	高校学年			FY2025 総計
	1年	2年	3年	
丸岡高校 <small>（アナログ企画部生内1名も含む）</small>	3	1		4
坂井高校	3	1		4
三国高校	2	1		3
金津高校	3	3		6
福井高校 <small>（アナログ企画部生内1名も含む）</small>		1		1
計	11	7		18

活動報告・継続

キックオフ

実施概要	日時：2025/07/13(日) 13:00-17:00 会場：春江中コミュニティセンター3階会議室
目的	参加者同士の顔合わせ／部活動の趣旨と内容の理解
内容	<ul style="list-style-type: none">・ デジタル帰宅部の説明・市長からの激励・ 3期生自己紹介・ グループディスカッション：「将来（10年後）自分が住みたいと思うまちを描いてみよう！」 「理想の自分、理想の大人像を描いてみよう！」・ ディスコードやzoomの設定
効果	<ul style="list-style-type: none">・ 活動の士気を高め、コミュニティと活動の基礎を作ることができた。・ 使用アプリのインストールや設定を一部進められた。



通常のオンライン活動

実施概要	期間：2025/7/31(木)～2025/01/22(木) 時間：20:00-21:30
内容	<ul style="list-style-type: none">・ 生徒の交流と対話・ 施策の検討・ マイクラ制作・ 発表に向けた準備（資料作成・プレゼンリハ）
使用ツール	基本はZoomを使用し、運営を行った。マイクラでの作業のみの場合は、最初にZoomにて案内のみを実施し、その後はディスコードに移動し部活を行う場合もあった。
実施内容	各回のMTGによって内容は異なるが ①自己紹介、各チームのテーマ設定 ②施策検討 ③構築 ④プレゼン準備、発表準備 以上の流れで実施をした。
運営体制	全体進行として統括の田川が司会進行や個別の生徒のフォローを実施し、各グループでの活動では、卒業生メンターと運営メンターを設置し、各チームの活動をサポートする体制を構築した。 ※運営体制は改善の余地があるため課題のページにも記載します。

活動報告・アップデート

フィールドワーク

実施概要	日時：2025/8/6(水)、8/9(土)、8/13(水)、12/6(土) 9:30～17:00 内容：丸岡城・東尋坊・三国湊エリアを視察
目的	地域を実際に訪問し自分の目で直接見ることで、マイクラでの制作物を考える。
今年度の改善工夫	【改善工夫①】ACNと連携し、FW前事前勉強会を実施 FWの前に、AIを活用し調査における仮説とFWで注目してみる視点を決めることで目的意識をもってFWに参加する状態を実現する工夫をおこなった。 【改善工夫②】地域の方と連携し、地域の課題と魅力の解像度を現場の人の知見を踏まえて学ぶ形に変更 昨年度のFWから、日程数や時間を増やし、地域団体の方との関わりを増やした。地域に根付き生活や活動をされている方から直接課題や魅力を教えていただき、施策案のアドバイスもいただくワークショップも開催した。
効果	<ul style="list-style-type: none">・制作物のアイデアとなった。（例：三国湊の休憩場所）・制作物のアイデアについて地域の方の目線からアドバイスをもらうことができた。・高校生が地域の課題と魅力を発見する機会となった。・地域のプレイヤーと接点を持つきっかけとなった。
高校生の反応	<ul style="list-style-type: none">・地域の知らない魅力と課題を見つけることができた。・こんなにゆっくり地域を見たことはなかった。



マイクラレクチャー

実施概要	日時：2025/9/18(木)、11/13(木) 20:00-21:30 講師：タツナミシュウイチさん
目的	【第1回目：9/18(木)】 <ul style="list-style-type: none">・プランをマイクラ制作、施策作りの観点からアドバイス・タツナミさんの取り組みについてのご紹介 【第2回目：11/13(木)】 <ul style="list-style-type: none">・完成した施策の共有・マイクラの製作におけるアドバイス・実現可能性を高めるプレゼンの手法としてのマイクラの使い方についてアドバイスをいただく
効果	<ul style="list-style-type: none">・実現可能性を意識し、マイクラをシミュレーションの手法としてどのように作りこんでいけば良いかをアドバイスしていただき、作りこむべき部分（注力すべき点）が明確になった。・プロの方から褒めてもらうことで、高校生のモチベーションに繋がり製作に対しての意欲が更に高まった。
高校生の感想	<ul style="list-style-type: none">・プレゼンの手法としてのマイクラづくりを頑張ります！・自分では思いつかなかった作りこみの方法について知ることができました！（アドオンについて）



マイクラ教育の第一人者
タツナミシュウイチさん



活動報告・アップデート

グローバルディスカッション

実施概要	日時：2025/10/30(木) 19:00-21:00 内容：アクセンチュアさんの外国籍メンバー(4名)に各エリアの概要、課題、制作物を共有
目的	グローバルな視点でのフィードバックを通し、高校生の視野を広げ、制作物に反映する。
効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校生が海外の旅行客の視点や文化の視点について外国籍メンバーと対話を通して関わりながら学ぶことができた。 ・ 観光施策としてインバウンド目線、都市在住者の視点を得ることができた。



合宿：対面での中間・最終発表準備

実施概要	日時：2025/10/26(土)・2025/12/07(日) 13:00-17:00 内容：中間・最終発表の資料作成・プレゼンリハ/マイクラ
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表資料を作成し、各地域の課題と魅力を整理する。 ・ 作成した施策・プレゼンとしてのマイクラの制作物の質をアクセンチュアメンバーからのアドバイスを通して磨き上げ、プレゼンの練習を行う。
効果	<p>最終発表の準備が進み、当日までの役割分担ができた。直接対話を重ねることで作業がはかどると同時に、高校生同士の対面での交流の機会となった。</p> <p>アクセンチュアメンバーと高校生が対話を通して、プレゼンテーションスキルやAI活用スキル、コミュニケーションスキル、クリティカルシンキングの能力が向上した。</p>



活動報告

マイクラを活用した制作物

メンバーが3つのチーム（丸岡城・三国湊・東尋坊）に分かれ、マイクラ上で構築。毎回の部活動や、合宿、グローバルディスカッションでのフィードバックから都度ブラッシュアップがされていった。

丸岡城



丸岡城のシンボルとなるでっけー門



城下町の街並みを復活



10代向けの映えるお店



神社風お土産屋さん

三国湊



街全体に江戸感を



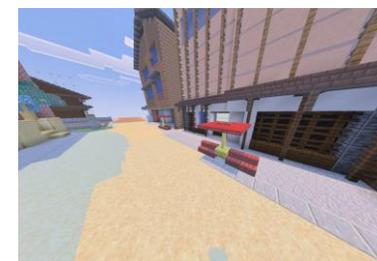
三国湊の歴史が分かる石碑



空き家スタンプラリー



三国湊日傘



影で休憩できる休憩スペース

東尋坊



東尋坊・三国崖公園



ほや丸休憩所



パティシエの夢を叶える「cliffs cafe」



船風の屋台

活動報告 最終発表

<p>実施概要</p>	<p>日 時：2025/12/20(日) 13:00-16:00 会 場：坂井市役所 3階 災害対策本部 ゲスト：池田市長・タツナミさん・カズさん アクセンチュア福井さん</p>
<p>目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● デジタル帰宅部 市長やゲストを招いた成果発表会を実施。活動報告に留まらず、生徒自らが発見した地域の課題や魅力を言語化し共有します。対話を通じて大人たちの多角的な視点や想いに触れることで、自身の学びを客観視し、地域の一員としての自覚（シビックプライド）の醸成を図ります。 ● アナログ企画部 デジタル帰宅部での構想を具現化し、実践した成果とプロセスを報告します。自身の活動を通じた変化や地域への感謝を自らの言葉で発信することで、地域への愛着を深化させます。また、自らが次代のロールモデルとなり、地域活動の意義を社会へ提示します。
<p>コンテンツ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最終発表：3エリア（10分／エリア） →発表後に、ゲストよりフィードバック ・ アナログ企画部メンバーよりイベントの活動内容と実績の共有、学びの共有 ・ 部活動の感想発表 → 修了証授与 → 写真撮影 ・ デジタル帰宅部での感想をメンバー内で振り返り共有 ・ ゲストとの交流



活動報告

アナログ企画部実証実験イベント

実施概要	日時：2025/12/14(日) 9:00-17:00 @しろまちミラいえ 来場者：57名 運営者：主要高校生：2名 ：当日スタッフ高校生：17名
目的	デジタル帰宅部で提案があった「地域と若者の繋がりを深める」「空き家問題」を解決するために、丸岡の空き家「しろまちミラいえ」で「若者の居場所」作りのイベントを実施した。
当日コンテンツ	・交流スペース ゲームや活版印刷ブースを用意 連携：丸岡城天守を国宝にする市民の会 ・学習スペース 集中して学習できるスペースを用意 連携：NPO法人 YORIDO ・カフェスペース 高校生が運営するカフェ 連携：カフェBunbun・木下農園
効果	・老若男女関係なく交流することができた。 ・「人」と「人」が改めて繋がっていることを実感できるイベントになった。 ・空き家を使ったことでアットホームな入りやすい空間作りができた。 ・地域住民に空き家問題を「知識」としてではなく「体験」として伝えられた。 ・空き家でこんなにも人と人が繋がることができるという前例ができた。 ・地元高校生を活動に大きく巻き込むことができた（丸岡高校生）
高校生の感想	・地域を「外から見る存在」ではなく「一員」として行動する経験になった。 ・地域の方々が、自分の思っている以上に協力してくれた。 ・もっと高校生に頼って欲しいと思った。



活動報告・アップデート

ボランティア参加者について（属性・所属/学年）

多くのボランティアの参加により、運営体制の充実だけでなく、会場の雰囲気づくりや来場者との交流が活発に行われた。その結果、イベント全体の活性化および活動の広がりにつながった。

学校名	学年				FY2025 総計
	1年	2年	3年	4年	
丸岡高校 <small>（アナログ企画部生内1名も含む）</small>	4	7			11
科学技術高校			1		1
羽水高校	1				1
福井南高校			1		1
福井高校 <small>（アナログ企画部生内1名も含む）</small>		3			3
福井大学 <small>（アナログ企画部メンター1名も含む）</small>			1	3	4
計	8	7	3	3	21

活動報告・新規取り組み

会津若松市ワールド交流会

実施概要	日 時：2026/2/1(日) 13:00-16:00 参加数：【坂井市側高校生】6名
目的	<ul style="list-style-type: none">・地域の魅力を他県の生徒に共有する。・自身が作成したマイクラ制作物を共有すると同時に、他市の取り組みを知る。・次年度継続してデジタル帰宅部へ参加する高校生を増やす。
当日コンテンツ	<ul style="list-style-type: none">・坂井市と会津若松市のお互いのエリアの制作物の説明・グループに分かれて、制作物の詳細説明、地域の紹介（地域のあるある魅力トーク）、部員同士の交流
効果	<ul style="list-style-type: none">・他地域の課題設定や解決アイデアに触れることで、自地域の特性や課題を相対的に捉える機会を得た。・高校生の満足度向上だけでなく、次年度以降の継続参加意向の向上に寄与する取り組みになった。・地域の魅力について他県の高中生と共有し、自分の住んでいる地域への愛着の醸成へつながった。
高校生の感想	<ul style="list-style-type: none">・会津若松市の高中生と交流することができて楽しかった！・お互いのワールドを行き来したり、一緒に制作物を作ってみたいと思った！・坂井市の魅力を改めて実感できた。



成果報告

2025年度のチャレンジと成果

第3期デジタル帰宅部では、新たな取組として卒業生の巻き込み、フィールドワークの強化、生成AIの導入、マイクラを活用した発信・交流の4点を新たに実施しました。

チャレンジ

成果

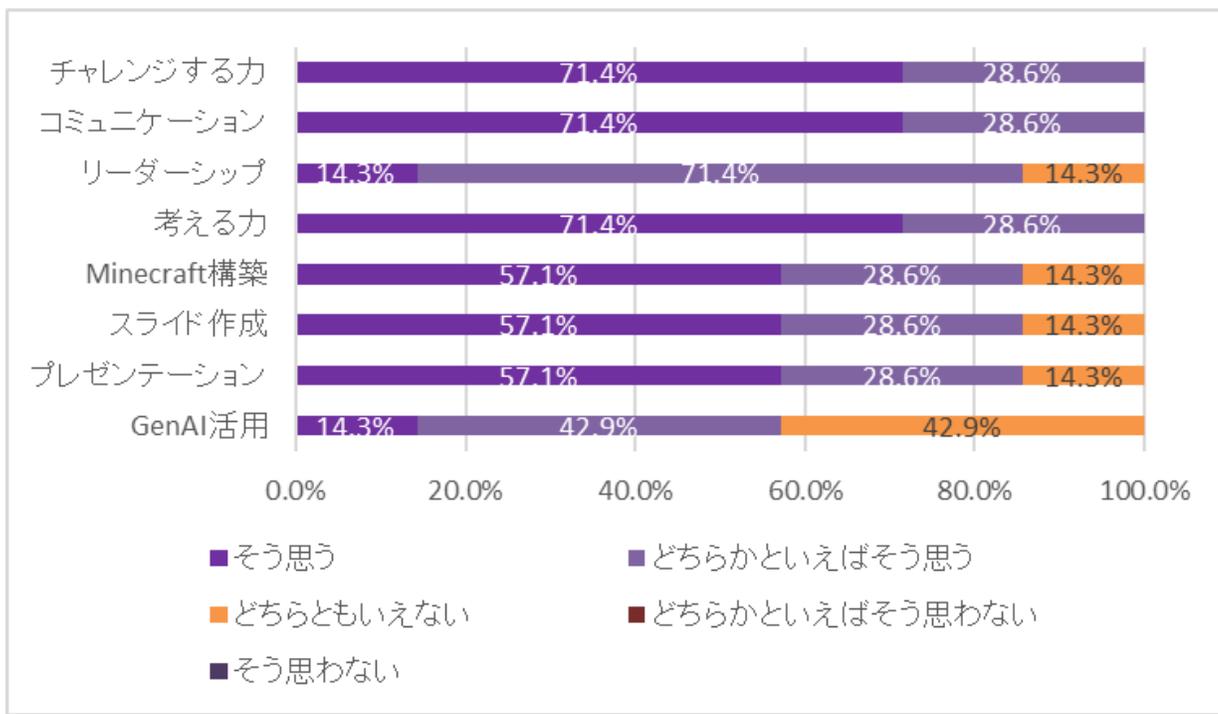
①	卒業生/大学生 メンター制度導入 で 大学生巻き込み	<ul style="list-style-type: none">坂井市出身の現役大学生を運営メンターにアサインデジタル帰宅部のOB/OGがメンターとして活動に参加	<ul style="list-style-type: none">地域内の縦のつながりの強化成果物の質向上OB/OGも地元の良さを再確認
②	フィールドワーク の強化	<ul style="list-style-type: none">地域観光団体にガイドの方に案内していただく形でフィールドワークを3回実施	<ul style="list-style-type: none">観光地（丸岡城、三国湊、東尋坊）の歴史、魅力、課題への理解が深まり、実現可能性もある成果物に質が向上
③	生成AIの導入	<ul style="list-style-type: none">アクセンチュア社員によるスキルアップ講座を受講し、生成AIの使い方について学習	<ul style="list-style-type: none">プロンプトエンジニアリングの基礎を学習部活動内でも実際に活用（アウトプットイメージ、アイディエーションなど）
④	マイクラを活用した 発信・交流	<ul style="list-style-type: none">2026年2月に会津若松市のデジタル帰宅部員とのワールド交流会を実施	<ul style="list-style-type: none">会津若松市の学生との対話や相手高校生からの質問を通じて、坂井市の魅力について再認識することができた

成果報告

成果事例 (高校生のアンケート結果)

デジタル帰宅部を通じたスキル向上については、「コミュニケーション能力」や「リーダーシップ」の2種目のスキルについて高まったと考える高校生の割合が前年度より増え、そのうち特に「リーダーシップ」については**12%**の大幅な改善が見られた。

デジタル帰宅部を通じた高校生の学び



高まったと思う能力

	FY24		FY25
チャレンジする力	100%		100%
コミュニケーション力	94%	+6%	100%
リーダーシップ	74%	+12%	86%
考える力	100%		100%
マイクラ構築	95%		86%
スライド構築	100%		86%
プレゼンテーション	95%		86%
GenAI活用	-		57%

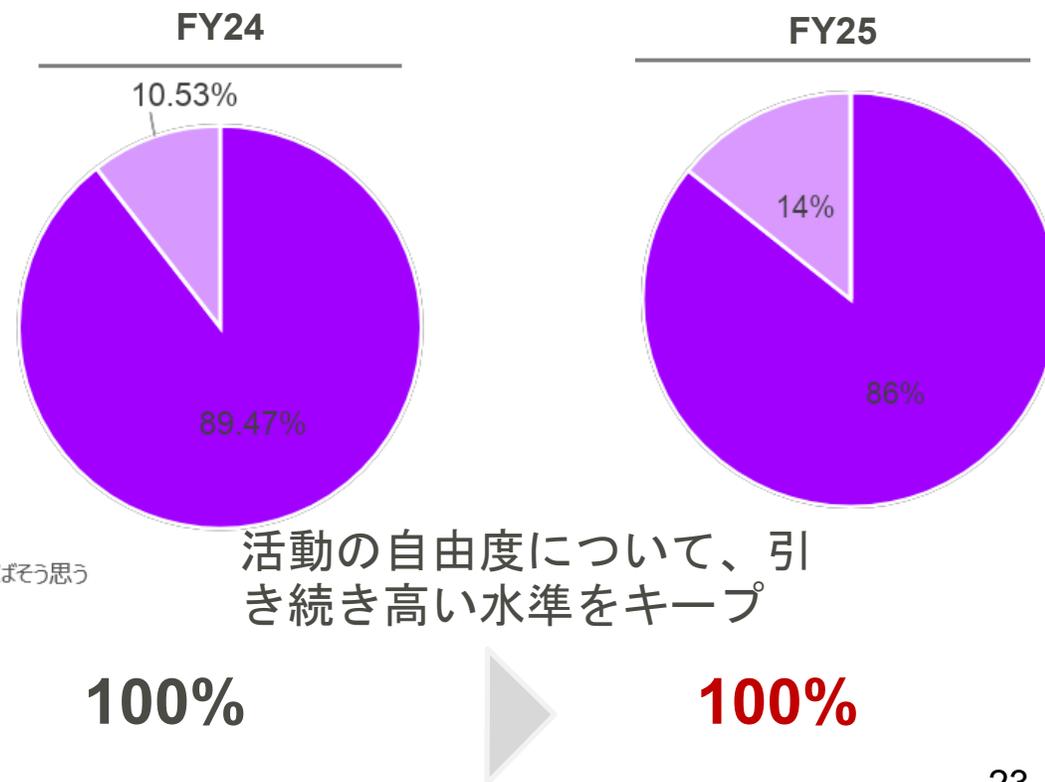
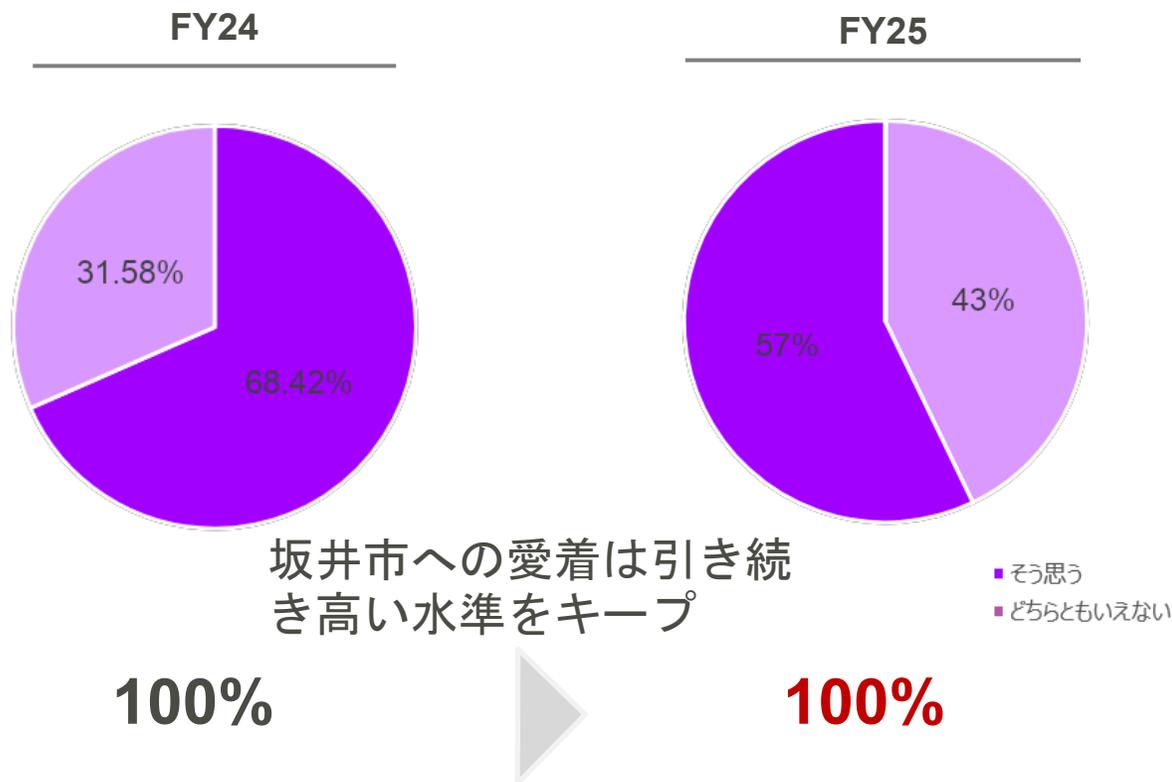
成果報告

成果事例 (高校生のアンケート結果)

デジタル帰宅部を通じて坂井市への愛着が高まった高校生は昨年度と同様100%となり、引き続き高い水準をキープ。また、デジタル帰宅部に参加しやすくなったと感じた高校生も昨年度と同様100%となり、引き続き高い水準をキープ。

成果事例1：【A】成功体験によるシビックプライドの醸成

成果事例2：【B】メタバースの活用による自由な活動



成果報告

成果事例：卒業生メンターの導入

過去デジタル帰宅部に参加したメンバーとの接点を大学進学後にも継続

第1期デジタル帰宅部の卒業生がメンターとして、プログラムに関与。自らの経験を現役部員に伝えており、地域内の縦のつながりが強化されるとともにOB/OG目線でも坂井市の魅力を再確認する機会となった。

成果事例②：新規のメンター参加で、地域へUターンを促す

過去デジタル帰宅部に参加したことのない、坂井市出身の大学生に県外から活動に参画していただき、将来のUターン意識を高めた。

※本スライドの公開にあたっては、関係者のプライバシー保護の観点から、原文書に記載されている具体的な情報の一部を削除しています。

成果報告

成果事例③-1：生徒の学びを深めるリフレクションの導入

活動終了後に学びのリフレクションを実施し、生徒の学びの言語化を支援。各生徒の言語化部分での成長と地域への愛着を目指した。

学びの振り返りアンケートでの回答内容（抜粋） ※一部、個人名等を改変しています。

地域の魅力を発見、他者との繋がり大切さ実感	地域のすごさを発見、地域の魅力を伝えたい	地域を学び俯瞰して理解する中で、自己成長の実感
<p>前と後だと、確実に本番に強くなりました。練習だと頭真っ白でセリフが飛んでしまったけど、本番の時は自分でも怖いくらい冷静でした。沢山の大人の方の前で、自分の考えを自分の言葉でプレゼンする機会は、なかなか無いと思うし、いい成長の場になると思うので、デジタル帰宅部に参加できてよかったです。3箇所のフィールドワークを通して、改めて坂井市のよさを知ることができました。</p> <p>デジタル帰宅部を通して、Tさんや他チームの人と友達になれてよかったです！今のところ福井を出る気は無いので、こういう地域の繋がりを大切にしていきたいです。</p>	<p>坂井市の歴史を学んでみて、改めて自分の住む街のすごさに気づかされました。現存天守がある丸岡城や、かつて商売で賑わった三国湊など、身近な場所に誇れるストーリーがたくさん眠っていて驚きました。この歴史をただ知っているだけでなく、これからはもっと多くの人に伝えていくことが大切だと感じています。例えば、SNSで歴史スポットの魅力を発信したりするなど、若い世代が楽しめる工夫をしたいと思います。歴史を大切にしながら、今の暮らしをもっと楽しくするアイデアを考えて、坂井市をさらに盛り上げていきたいと思いました。</p>	<p>デジタル帰宅部参加前はあまり外部の活動等に興味はなく、地域活性化欲もあまりありませんでしたが、この活動に参加してからは積極的に活動する力がついたと思います。今まで外部の活動は完全に興味はなかったのですが、"マイクラ"の要素があり興味本位で参加したところ、かなり有益な体験ができ、自分の住む地域を改めて客観視し、そして住む地域のいいところ、そして悪いところも俯瞰してみることができ、それらを解決するためにアイデアを仲間たちと一緒に出す、ということで問題解決能力を以前より身につけられたと思います。そしてそれらを活動として実際にマイクラ内で制作することで、表現力、創造力がついたと思います。また、その後のスライドの作成及び発表によって文章にまとめる力、どのようにしたら伝わりやすいかの創意工夫などもでき、いい経験になりました。</p>

成果報告

成果事例③-2：生徒の学びを深めるリフレクションの導入

活動終了後に学びのリフレクションを実施し、生徒の学びの言語化を支援。各生徒の言語化部分での成長と地域への愛着を目指した。

学びの振り返りアンケートでの回答内容（抜粋） ※一部、個人名等を改変しています。

自分事で地域の魅力を語るできるようになった	多様な人からの刺激、自己成長	更なる成長の意欲、マイクラから地域への興味の変化
<p>坂井市のことを思い浮かべるとき、胸の奥が静かに温かくなるのを感じます。決して大都市のような華やかさや利便性があるわけではありませんが、あの海の香りや広い空、少し強めの風に触れると、自分が確かにこの場所に立っているのだと実感できます。</p> <p>三國湊の町並みを歩いていると、足元の石畳や古い建物の一つひとつから、長い年月を経てきた歴史の重みが伝わってきます。静かな港に差し込む夕日の光景はどこか懐かしく、心を穏やかにしてくれます。観光地というよりも、人々の暮らしが今も息づいている場所であることを強く感じ、温かい気持ちに包まれ、また、丸岡城の落ち着いた佇まいからは、積み重ねられた歴史と人々の想いが感じられ、心が守られているような安心感を覚えます。</p> <p>坂井市は、単に美しい場所というだけではなく、自分の感情を素直にしてくれる大切な存在です。うまくいかない日や悩みを抱えているときでも、あの景色を思い出すだけで呼吸が少し楽になります。気がつけば、坂井市への想いは以前よりも確実に強くなっていました。それはきっと、「好き」という気持ちを超え、心から大切に思う存在になっている証なのだと思います。</p>	<p>きっかけは推薦に使える活動がないかなって探していたことで、BEAU LABOはみんなやってるしなんか個性ないなあって思って辿り着いたのがデジタル帰宅部でした。活動していく中で、なんとなく仕方ない感はあるけど後輩を支える立場になって、Y氏やメンターなど人生の大先輩達から、たくさんの刺激を受けて、最終的には報告会でチームの発表以外にも、デジタル帰宅部代表として大勢の前で話す機会までもらうことができました。例えばそれがT氏からしたら"なんとなく"であったとしても僕は、「この子なら任せても大丈夫」と、自分の活動の頑張りやみんなから認められた気がしてとても嬉しかったです。この活動を通して得た経験は、推薦なんかよりもっと大切な自分の人生に生きてくると感じています。もし、後輩で当初の自分と同じような理由で探究活動を探している子がいたのなら、この熱い心を持った奴ら集まる場所、デジタル帰宅部を紹介してやりたいと思います。</p>	<p>僕が習ったことは魅力的なものではありますが今はまだ物足りないものがあることがわかりました。それを踏まえ僕はその改善のためにマイクラで東尋坊を追加して欲しいものを作りました。自分は何が足りないかを考えてそれをマイクラで作ってみました。そしてこれを発表してどのような物を作るかを考えてみました。これでもう少し魅力をあげて東尋坊を有名にして欲しいと思いました。そして次も参加した時には別の場所に違う物を作っていきたいと思っています</p>